

マタイ 5:17-20 「外なる人、内なる人」

聖句

「わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思っはならない。廃止するためではなく、完成するためである。はっきり言っておく。すべてのことが実現し、天地が消えうせるまで、律法の文字から一点一画も消え去ることはない。だから、これらの最も小さな掟を一つでも破り、そうするようにと人に教える者は、天の国で最も小さい者と呼ばれる。しかし、それを守り、そうするように教える者は、天の国で大いなる者と呼ばれる。言っておくが、あなたがたの義が律法学者やファリサイ派の人々の義にまさっていなければ、あなたがたは決して天の国に入ることができない」

律法とは、何でありましようか。律法とは、人間の行ないを外側から規制しようとするものであります。

いったい、人が心に思いはかることは、すべて悪いことばかりだ。これは、ノアの洪水の直後に、神様が人間をご覧になっておっしゃられた言葉です。創世記 8:21 に、こう記されています。「人が心に思うことは、幼いときから悪いのだ」

心の中の悪い思いが、行ないとなって外側に現れて参ります。これが、悪い行いであります。

もし世界に、いかなる規制もなく、すべての人が、その心に抱く思いのままにふるまったとしたら、どうなってしまうでしょう？ 盗み、奪い、傷つけ、滅ぼすことが、延々と繰り返された挙げ句、ついに人間は自滅してしまうであります。

そうはならないように、神様は、わたしたち人間に「抑制の恩恵」をお与えくださいました。それが、律法であります。

律法は、第一に、何が悪い行いかを、はっきりと示します。「これこれをしてはならない」と禁止するのです。これが、律法の持つ、禁止の権能であります。

律法は、第二に、禁じられたにもかかわらず、悪を行なう者に対して、その悪の度合いに応じて、罰を与えます。これが、律法の持つ、呪いの権能であります。

このように、律法は、禁止することと、罰を与えることによって、わたしたちの行いを外側から規制し、そうすることで、わたしたちが秩序と安寧のうちに生きることができるよう、保障し、もって、わたしたちを滅びから免れさせているのです。

しかし、ここに、ファリサイ派の律法学者たちがおりました。これが、問題の人々であります。

ファリサイ派の律法学者は、律法には、神様の御心が完全に示されている、と考えていました。それゆえ、あらゆる宗教的情熱を注いで、律法を完全に守ろうと、努力していたのです。

その結果、奇妙なことが起きました。すなわち、外なる人と、内なる人の矛盾、ということであります。

ファリサイ派の律法学者は、外側の行ないにおいては、律法をすべて守るべく、努力していました。外なる人において、完全であったのです。

ところが、心の中の思いにおいては、そうではありませんでした。

主イエスキリストは、ファリサイ派の律法学者を、このように批判しておられます。マタイ 23:27-28 に記されている言葉です。

「律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。白く塗った墓に似ているからだ。外側は美しく見えるが、内側は死者の骨やあらゆる汚れで満ちている。このようにあなたたちも、外側は人に正しいように見えなが

ら、内側は偽善と不法で満ちている」

主イエスキリストは、人間の本質は、心の中にこそある、と見ておられるのです。わたしたちは、この本質を、問われている、ということでもあります。

わたしたちの外側の行ない、わたしたちの外なる人は、ほかの人から見て正しいように見えるかもしれません。わたしたちは、盗んだり、奪ったり、傷つけたり、滅ぼしたり、ということは何ひとつしない。わたしたちは、怠けたり、嘘をついたり、偽ったり、ということは何ひとつしない。わたしたちは、汚れたものに触れたり、不潔なことをしたり、ということは何ひとつしない。わたしたちは、お祈りもするし、聖書も読んでいるし、良きわざにも励んでいる。ですから、ほかの人から見て、わたしたちの外側の行ない、わたしたちの外なる人は、正しいように見えるのです。

だが、わたしたちの心の中、わたしたちの本質、わたしたちの内なる人は、どうなのだろうか？

主イエスキリストは、こう問われるのです。「あなたは白く塗った墓ではないか？ 外側は正しいように見えながら、内側は汚れているのではないか？」

本質を問われる、ということは、恐ろしいことでもあります。主イエスキリストから、おのれの本質を問われて、顔を上げることの出来る人が、いったい、いるのでしょうか？ わたしたちは、ただうなだれて、恥じ入るばかりです。

そうして、ただうなだれて、恥じ入るばかりの姿をこそ、主イエスキリストは、求めていたもうのです。ルカ 18:9-14 に、このように記されています。

「自分は正しい人間だとうぬぼれて、他人を見下している人々に対しても、イエスは次のたとえを話された。『二人の人が祈るために神殿に上った。一人はファリサイ派の人で、もう一人は徴税人だった。ファリサイ派の人は立って、心の中でこのように祈った。『神様、わたしはほかの人のように、奪い取る者、不正な者、姦通を犯す者でなく、また、この徴税人のような者でもないことを感謝します。わたしは週に二度断食し、全収入の十分の一を献げています』 と

ころが、徴税人は遠くに立って、目を天に上げようともせず、胸を打ちながら言った。『神様、罪人のわたしを憐れんでください』 言うておくが、義とされて家に帰ったのは、この人であって、あのファリサイ派の人ではない。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる』

主イエスキリストは、わたしたちのために、十字架の犠牲を払い、その恵みによって、わたしたちの罪をゆるしてくださいます。これが「恵みによる義」であります。

そうして、この「恵みによる義」を受けられない人々がいる、ということを、わたしたちは今朝、考えなければなりません。どういう人々が、「恵みによる義」を受けられないのでしょうか？ わたしは正しい人間ですから、恵みなどまったく必要ありません、という人々が、それであります。

おのれの本質を問われたときに、ほんとうの自分を覆い隠してしまって、人の目を欺くだけでなく、自分自身をも欺き、「わたしには何も問題がありません」と言い得てしまう。そういう人々であります。

ですけれども、おのれの本質を問われたときに、ほんとうの自分に直面して、深く恥じ入り、「神様、罪人のわたしを憐れんでください」と祈ることが出来る人は、まことに幸いであります。「恵みによる義」は、まさに、その人のためのものであるからです。

ここに逆説があります。低くなる者が、高められる、という逆説。貧しい人たちが、幸いである、という逆説。悲しんでいる人たちが、幸いである、という逆説。義に飢え渴いている人たちが、幸いである、という逆説です。

主イエスキリストは、「恵みによる義」を、わたしたちに備えていてくださいます。

この「恵みによる義」は、主イエスキリストが身代わりとなって、十字架にかかってくださった、というだけで終わりません。主イエスキリストが、復活な

さって、復活の主として、わたしたちと共に生きてくださるということ。これもまた、大いなる恵みの一部であります。

しかし、恵みは、それだけにとどまりません。わたしたちは、受難節から復活祭を経て、聖霊降臨祭（ペンテコステ）へ向おうとしております。復活なさった主イエスキリストはまた、わたしたちに聖霊を注いでくださって、わたしたちの心をきよめてくださいます。これもまた、大いなる恵みの一部であります。

だからこそ、わたしたちは、自分を恥じて祈るべきであります。「神様、罪人のわたしを憐れんでください」と、祈るべきであります。そのように祈るのは、第一に、わたしたちが行ないにおいて犯した罪を、ゆるしていただくため。外なる人において犯した罪を、ゆるしていただくためであります。

さらにわたしたちは「神様、罪人のわたしを憐れんでください」と、祈るべきであります。そのように祈るのは、第二に、わたしたちが心の思いにおいて犯した罪を、ゆるしていただくため。内なる人において犯した罪を、ゆるしていただくためであります。

さらにわたしたちは「神様、罪人のわたしを憐れんでください」と、祈るべきであります。そのように祈るのは、第三に、わたしたちの心をまったくきよめていただくため。外なる人にも、内なる人にも、聖霊を注いでいただいて、外も内も、まったくきよめていただくためであります。

わたしたちは、どのようにしたら「恵みによる義」を十全に享受することができるのでしょうか？

道は、ただ一つであります。「神様、罪人のわたしを憐れんでください」という祈りを、十字架の主、復活の主、聖霊を注ぎ給う主、イエスキリストに、ひたすらささげることによって、であります。それこそが、わたしたちの今日の祈りであります。祈りましょう。

祈り

主イエスキリストの父なる神。わたしたちは、いま、自分の心の内なる思いを静かに省みて、ただ、ただ、恥じ入るばかりです。それで、あの罪人の祈りを、自分自身の祈りとして、おささげします。

「主イエスキリスト、罪人のわたしを憐れんでください」

どうか、十字架の主が、わたしたちの罪をおゆるしくくださいますように。

「主イエスキリスト、罪人のわたしを憐れんでください」

どうか、復活の主が、わたしたちの歩みを助けてくださいますように。

「主イエスキリスト、罪人のわたしを憐れんでください」

どうか、聖霊を注いでくださる主が、聖霊によって、わたしたちの心をまったくきよめてくださいますように。

ファリサイ派の義ではなく、律法学者の義でもなく、「恵みによる義」が、今日も、わたしたちのために、備えられていますことを、心から感謝いたします。主イエスキリストの御名によって、お祈りいたします。アーメン